

特 2

460

紅
紫
梅

27

東 京 圖 書 館

三
二
冊

三
號

四
七
架

函

音
樂
類

和
書
門



紅葉標

時雨

と急ぐ

紅葉標

が山

路と尋ね

是を汝あつて住

女子

もあつて浮世

もていふ今もわが白雲の八

童謡もあつて後言のちひよも

人社もあつてまゝのちひよも

うしろよかこひの思ふたたりと恋
 の心もかこひの思ふたたりと恋
 詠みたる思ふたたりと恋
 侍りたる思ふたたりと恋
 うしろよかこひの思ふたたりと恋
 朝の原の思ふたたりと恋
 まんじりかこひの思ふたたりと恋

美らも思ふたたりと恋
 清らも思ふたたりと恋
 中絶し思ふたたりと恋
 方乃指し思ふたたりと恋
 面白き思ふたたりと恋
 の本も思ふたたりと恋
 面おも思ふたたりと恋

うらやまの心はさかづき
あはれをこぼす

あはれをこぼす
あはれをこぼす

あはれをこぼす
あはれをこぼす

あはれをこぼす
あはれをこぼす

あはれをこぼす
あはれをこぼす

あはれをこぼす
あはれをこぼす

あはれをこぼす
あはれをこぼす

あはれをこぼす
あはれをこぼす

あはれをこぼす
あはれをこぼす

あはれをこぼす
あはれをこぼす

あはれをこぼす
あはれをこぼす

あはれをこぼす
あはれをこぼす

あはれをこぼす
あはれをこぼす

あはれをこぼす
あはれをこぼす

女上

女上

女上

女上

女上

成るる夢の告と北驚く枕上雷

火乱き大地も響き風をもちこち

乃たつさもさるぬ山中に松まつか

下花行言上書しやあそびしやあそびしやあそび

夢くさるる夢の告と北驚く枕上雷

岩ほよ火焔を散れまゝに火をよ

あほささるる威陽宮乃煙の中よ

七尺の屏風はくさるるを御し其

なき一丈の兎非れ角かほく眼

多日月面をもちくさるるを御し

早下にれきさるるを御し

まらもさるるを御し南無や八幡

又善障くさるるを御し御あいて侍

かきかへるるを御し御あいて侍

かゝるを懸ち外にむしとくを究むの
まんある所は通ひ可な頭をつか
てあつらんことを切まらひ給へ
初は畏れていを度のかさなりを
ろしりし處に忽ち兎を志す人
給ふ威勢の弱きを扶うろきま

右之本者觀世大夫織部
章句真本令放行畢

正徳六丙申歲弥生

天保十一庚子歲孟春改正再板

皇都二条通御幸町西江入町

山本長兵衛



明治十六年九月廿四日翻刻御届
同 年十月 刻成發兌

翻刻人

京都府平民

本田市次郎



京 都 專 賣 書 林

北村善兵衛
風月庄左衛門
石田忠兵衛
町田與三吉
佐々木總四郎
細川清助
辻本九兵衛
福井孝太郎
竹岡文助
福井源次郎

村上勘兵衛
辻本定次郎
須磨勘兵衛
遠藤平左衛門
大谷仁兵衛
杉本甚助
大谷玄之助
明田嘉七
笹田弥兵衛
田中治兵衛

菱澤重兵衛
内藤彦一
川勝徳次郎
今井七良兵衛
藤井淺次郎
近藤太十郎
澤田友五郎
西村七兵衛
西村九良兵衛
永田調兵衛

